



日進工具株式会社

～超硬小径エンドミルのトップランナー～

事業概要と経営戦略を
情熱をもって
皆さまにお伝えいたします



2013年3月期 2Q決算概要

2012年10月31日
(証券コード6157)

目次

1. 日進工具とは

- P. 3 … 会社概要と代表者プロフィール
- P. 5 … 日進工具の特徴
- P. 6 … 当社の技術の最先端はこれだ
- P. 7 … 需要業種と主要ユーザー

2. 2013年3月期2Qの業績

- P. 10 … エグゼクティブサマリー: 期初計画を超過
- P. 11 … 2013年3月期2Qの重要なトピック
- P. 12 … 損益計算書及び貸借対照表サマリー

3. 2013年3月期の業績見通し

- P. 20 … 業績予想見通し: 期初計画を据え置き
- P. 23 … 株主還元について(増配と株主分割)

4. 業界動向と事業戦略

- P. 25 … 業界動向
- P. 27 … Made in Japanを標榜
- P. 28 … 3つの経営戦略

5. 最後に、マーケットの皆様へ

- P. 34 … 2013年3月期のIR活動目標と実践状況
- P. 36 … 一層開かれた株主総会を目指して
- P. 37 … IRサイトをリニューアルいたしました

<参考資料>

- P. 38 … 創業時からの売上高・経常利益推移
- P. 39 … 過去5年間の業績と主要データの推移



1. 日進工具とは

End Mill for Hard Brittle Materials

DCMS



会社概要と代表者プロフィール

会社概要

商号 : 日進工具株式会社
創業 : 1954年12月
事業内容 : 超硬小径エンドミル等の製造販売
取引所 : ジャスダック市場(コード6157)

2012年3月期業績

売上高 : 57.8億円
経常利益 : 10.3億円
売上高経常利益率 : 17.9%

マーケットにおける評価 (10/30時点:株価1,400円)

時価総額 : 43.7億円
PER(13/3期予想) : 7.29倍
PBR(12/3期実績) : 0.66倍



代表取締役社長
後藤 勇

後藤勇のプロフィール

1966年 入社
1991年 代表取締役社長就任
2004年 ジャスダック上場

後藤勇の信条

☆笑顔と感謝を忘れずに
☆モノづくりはヒトづくり

社是

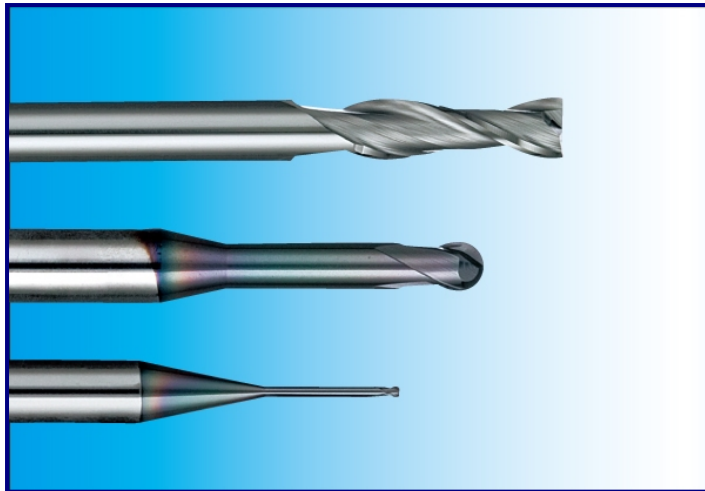


明 (明るく)

楽 (楽しく)

創 (創造をしよう)

日進工具の特徴



当社製品『超硬エンドミル』は、
金型や自動車部品・電子部品等
の加工に使用される

1. 超硬小径エンドミルのトップランナー
～国内シェアは31.9%とトップ～

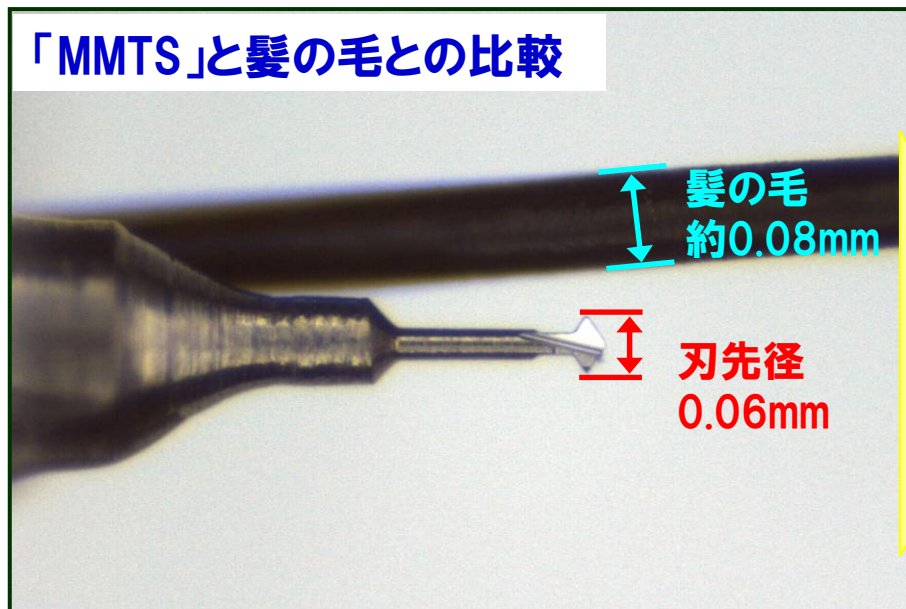
2. 高収益体質
～第2四半期累計期間における
売上高経常利益率は18.3%～

3. 無借金経営
～第2四半期末における
自己資本比率は85.1%と強固な財務体質～

4. 高い危機対応能力
～大震災後、仙台工場は約1ヶ月で全面復旧～
有事に備え、東京本社に3.5ヶ月分の在庫を確保

当社の技術の最先端はこれだ

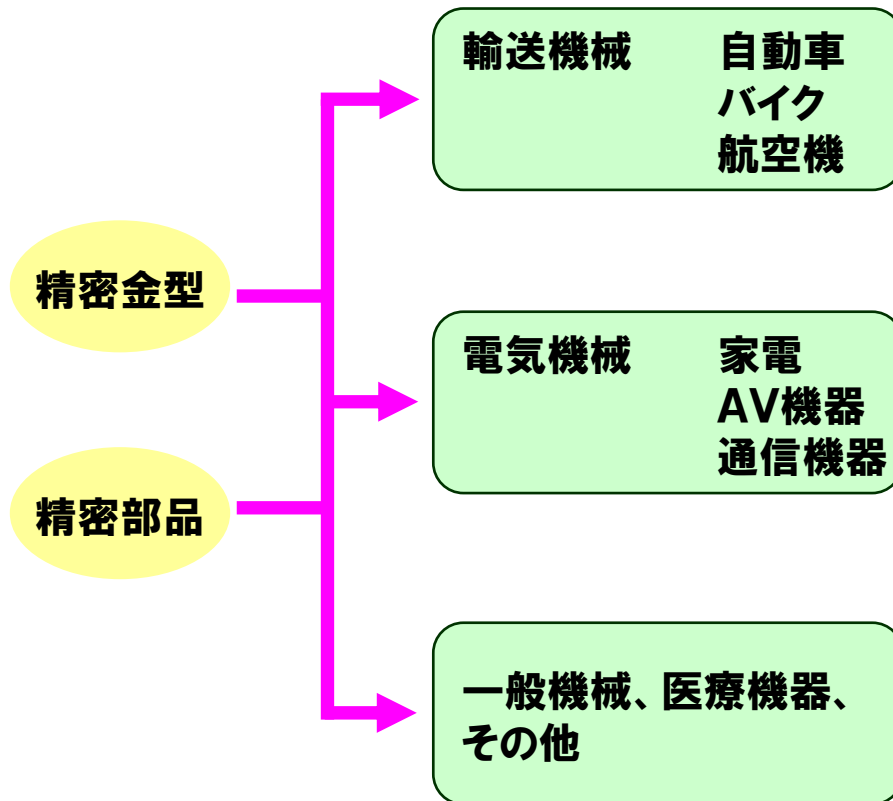
2011年 **超**モノづくり部品大賞「日本力 (にっぽんぶらんど) 賞」を受賞
【受賞製品 マイクロねじ切り工具 MMTS】



部品・部材を対象として、技術の独創性や性能、環境への配慮などに優れた製品が選定される
(モノづくり推進会議・日刊工業新聞社共催/経済産業省後援)

需要業種と主要ユーザー

需要業種

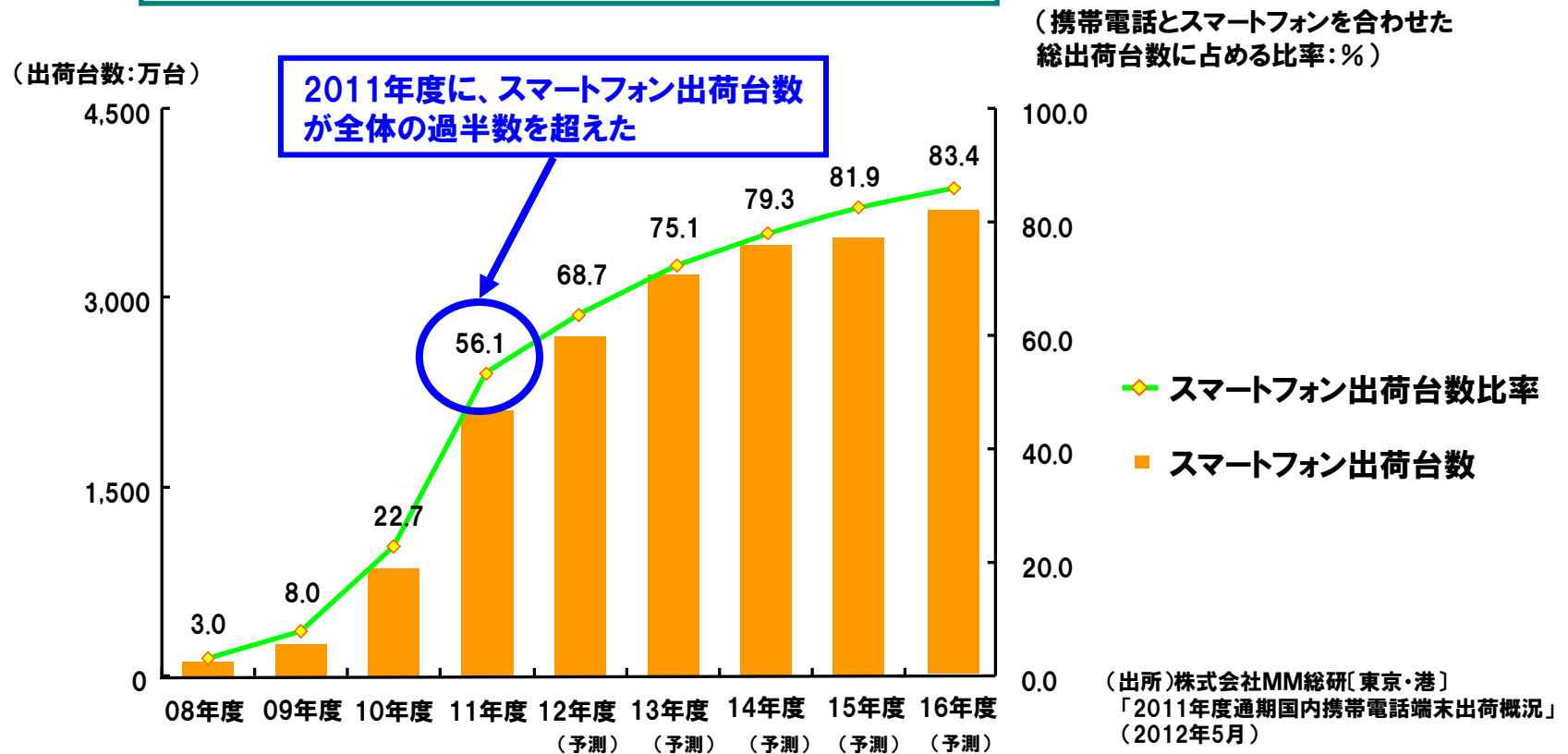


主要ユーザー

主なユーザー企業名	業種
キヤノン	カメラ・OA機器
ニコン	カメラ・半導体製造装置
パナソニック	民生用電機
ヒロセ電機	電子部品
アルプス電気	電子部品
東京エレクトロン	半導体製造装置
トヨタ自動車	自動車
デンソー	自動車部品
アイシン精機	自動車部品
ブラザー	機械(事務機)
バンダイ	玩具
シマノ	自転車部品等

今、最もホットな分野：スマートフォン市場の動向

スマートフォン出荷台数(比率)の推移・予測



スマートフォンの部品点数は携帯電話の5割増 ➡ 超硬小径エンドミルの需要拡大へ



2. 2013年3月期2Qの業績



エグゼクティブサマリー

(百万円)

	前2Q 実績	当2Q 実績	当2Q 期初予想	達成率
売上高	2,915 (+21.0%)	3,102 (+6.4%)	3,020 (+3.6%)	102.7%
営業利益	531 (+40.9%)	550 (+3.5%)	500 (-6.0%)	110.1%
経常利益	556 (+39.1%)	568 (+2.3%)	510 (-8.3%)	111.5%
当期 純利益	317 (+36.6%)	331 (+4.3%)	280 (-11.9%)	118.4%

- すべての項目で期初計画を上回り、業績は順調に推移
- 売上高は2Q(累計)ベースにおける過去最高を記録
- 期初計画では設備投資増強による減価償却費増等から減益予想であったが、増益で着地
- 増収と生産効率アップにより、売上総利益は前年同期比8.7%増加したが、展示会費等から販売管理費が同11.9%の増加となり、営業利益は同3.5%増加の550百万円

※()内は前年同期比増減率

2013年3月期2Qの重要なトピック

1. 2Q業績は好調、通期予想に対しても順調な進捗率

- 売上高はスマートフォン・タブレット端末関連が好調で過去最高を記録
- 経常利益は2Q計画比111.5%、通期予想比54.1%の進捗率
- 但し、外部環境は一段と厳しくなっており、通期見通しは据え置き

2. 牧野工業 新工場建設(福島県白河市)

- 内製化促進により、品質アップと原価低減を図る
- 工具ケース以外の新製品開発 ⇒ 新たなマーケットの開拓

3. 株式分割を実施(10月1日に1株 ⇒ 2株へ)

- 従来からの経営課題であった「流動性」の改善を図り、投資家の利便性向上へ

損益計算書サマリー

(百万円、%)

	2012/3期 2Q	2013/3期 2Q	前年同期比	コメント
売上高	2,915	3,102	+6.4%	前年同期比6.4%増の3,102百万円で2Q(累計)ベースでの過去最高を更新
売上総利益(率)	1,374 (47.1%)	1,493 (48.1%)	+8.7%	生産効率の向上により売上総利益率は前年同期比1.0ポイントアップ
販管費(率)	842 (28.9%)	942 (30.4%)	+11.9%	昨年は震災によりほとんどの展示会が中止となったが、今年は積極的に参加したこと等から、同期比11.9%の増加
営業利益(率)	531 (18.2%)	550 (17.7%)	+3.5%	3.5%の営業増益を果たしたが、販管費比率の増加により営業利益率はダウン
経常利益(率)	556 (19.1%)	568 (18.3%)	+2.3%	営業外費用が若干増加したため、増益率は営業利益を下回る2.3%に止まる
当期純利益(率)	317 (10.9%)	331 (10.7%)	+4.3%	前年同期は震災による特損18百万円を計上、今期の特損は除却損等による1百万円
設備投資額	637	628	-1.5%	機械設備増強(約350百万円)、子会社新工場関係(約250百万円)
減価償却費	215	261	+21.6%	上記機械設備の増強等により増加
従業員数	258人	270人	+4.7%	

※四半期ベース(3ヶ月ごと)の売上高等の推移につきましては、P.14~P.18をご参照ください

貸借対照表サマリー

(百万円)

	2012/3	構成比	2012/9	構成比	前期比
(資産の部)					
I 流動資産	4,471	56.6%	4,312	53.1%	-3.6%
現金及び預金	2,231	28.2%	1,873	23.1%	-16.0%
受取手形及び売掛金	794	10.0%	870	10.7%	+9.6%
商品及び製品	685	8.7%	759	9.4%	+10.8%
II 固定資産	3,434	43.4%	3,804	46.9%	+10.8%
有形固定資産	3,165	40.0%	3,552	43.8%	+12.2%
無形固定資産	11	0.1%	9	0.1%	-18.2%
投資その他の資産	257	3.3%	242	3.0%	-5.8%
資産合計	7,906	100.0%	8,116	100.0%	+2.7%
(負債の部)					
I 流動負債	949	12.0%	920	11.3%	-3.1%
買掛金	176	2.2%	212	2.6%	+20.5%
II 固定負債	279	3.5%	285	3.5%	+2.2%
負債合計	1,228	15.5%	1,206	14.9%	-1.8%
(純資産の部)					
純資産合計	6,678	84.5%	6,910	85.1%	+3.5%
負債・純資産合計	7,906	100.0%	8,116	100.0%	+2.7%

■ 機械設備導入や子会社新工場の建設費支払い等から現預金が減少し有形固定資産が増加

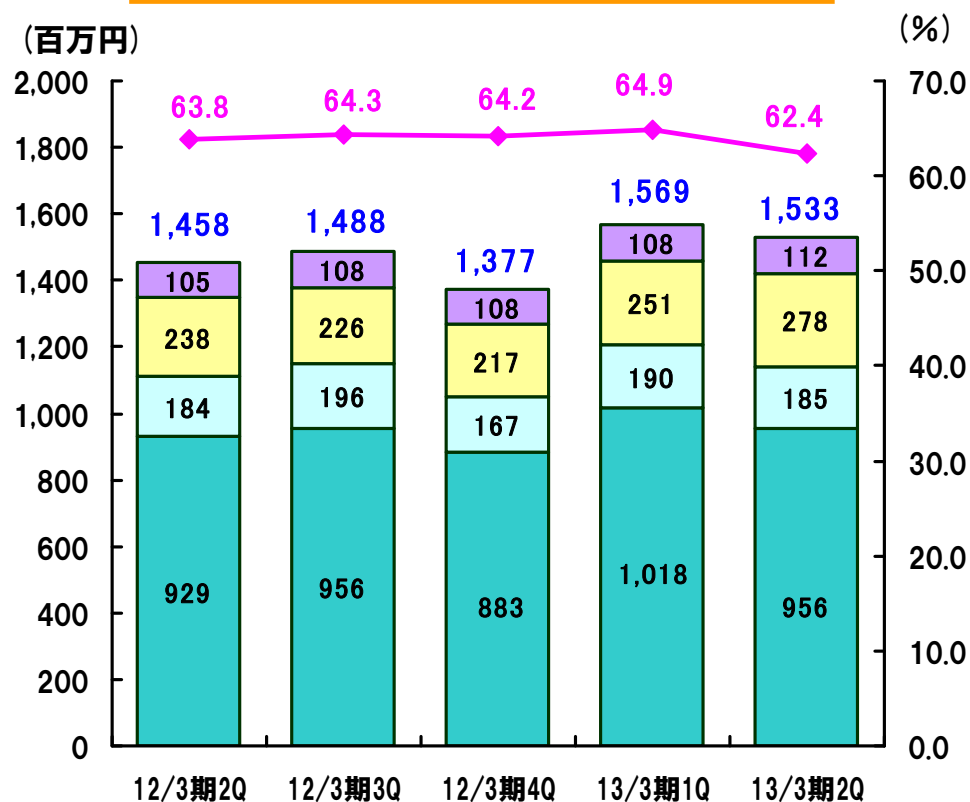
■ リスク対策の一環として主力製品の在庫拡充を図ったため、商品及び製品が増加

■ 無借金経営のため、有利子負債額はゼロ

■ 自己資本比率は85.1%と強固な財務体質

（四半期ベース資料）売上高の推移 ①製品別

製品別売上高と小径比率の推移



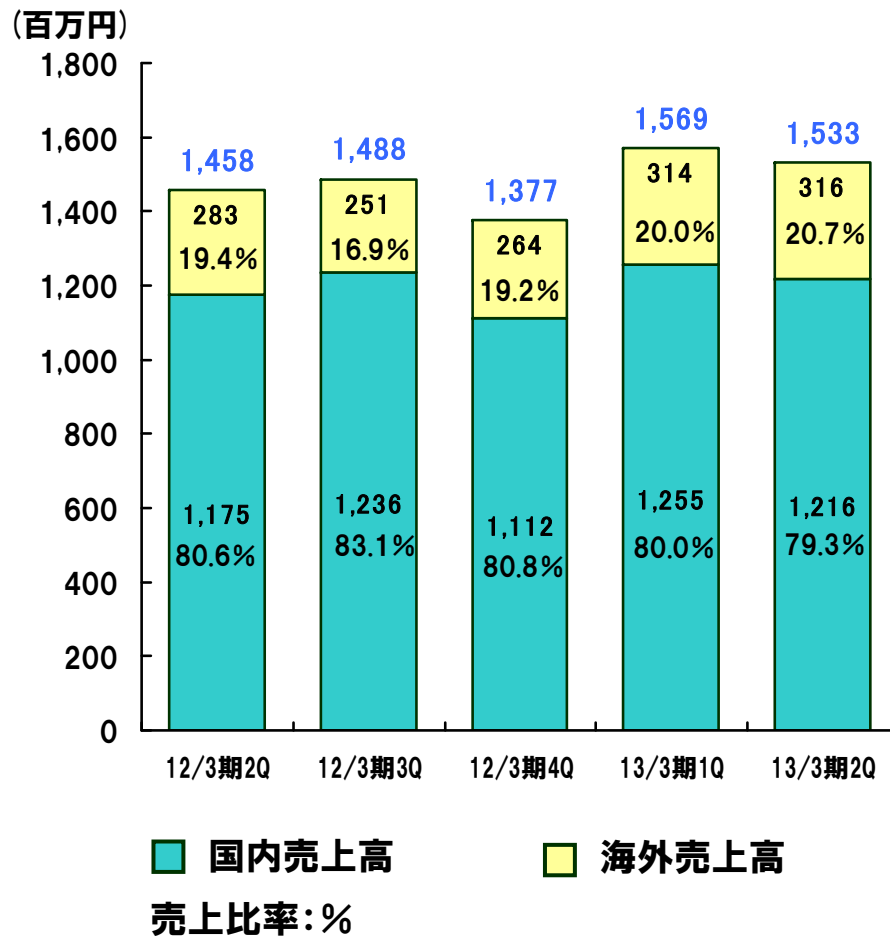
■ エンドミル (6mm以下) ■ エンドミル (6mm超)
 ■ エンドミル (その他) ■ その他製品

◆ 小径比率

- 連結売上高は前年同期比5.1%増の1,533百万円
- 需要先では自動車関連が1Q比でやや減速となった一方、スマートフォン・タブレット端末関連は引き続き好調、特にiPhone5の影響が大きかった
- 製品別では、主力の「エンドミル (6mm以下)」が前年同期比2.9%増の956百万円と伸びたものの、特殊品の増加等から「エンドミル (その他)」が同16.6%増加の278百万円となったため、小径比率は1.5ポイント低下し62.4%

（四半期ベース資料）売上高の推移 ②国内・海外

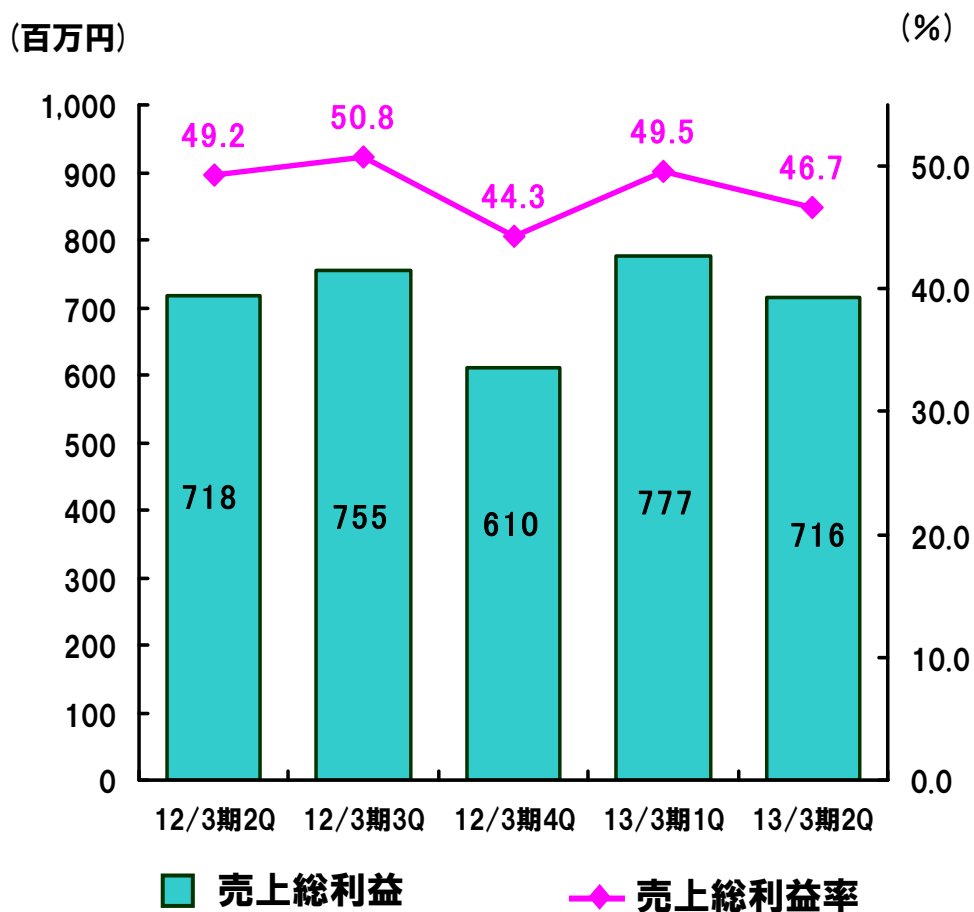
国内・海外売上高の推移



- 国内売上高は前年同期比3.5%増の1,216百万円
- 海外売上高は前年同期比11.9%増の316百万円（第1四半期を上回り、四半期ベースでの過去最高を更新）
- 海外の伸びが上回ったため、海外売上高比率は前年同期比1.3ポイントアップの20.7%へ
- 地域別では、中国・台湾が前年同期比40.9%増と大きく伸びたが、債務危機問題が続く欧州は16.4%の減少
- 海外向け製品は円建て販売が主体

（四半期ベース資料） 売上総利益の推移

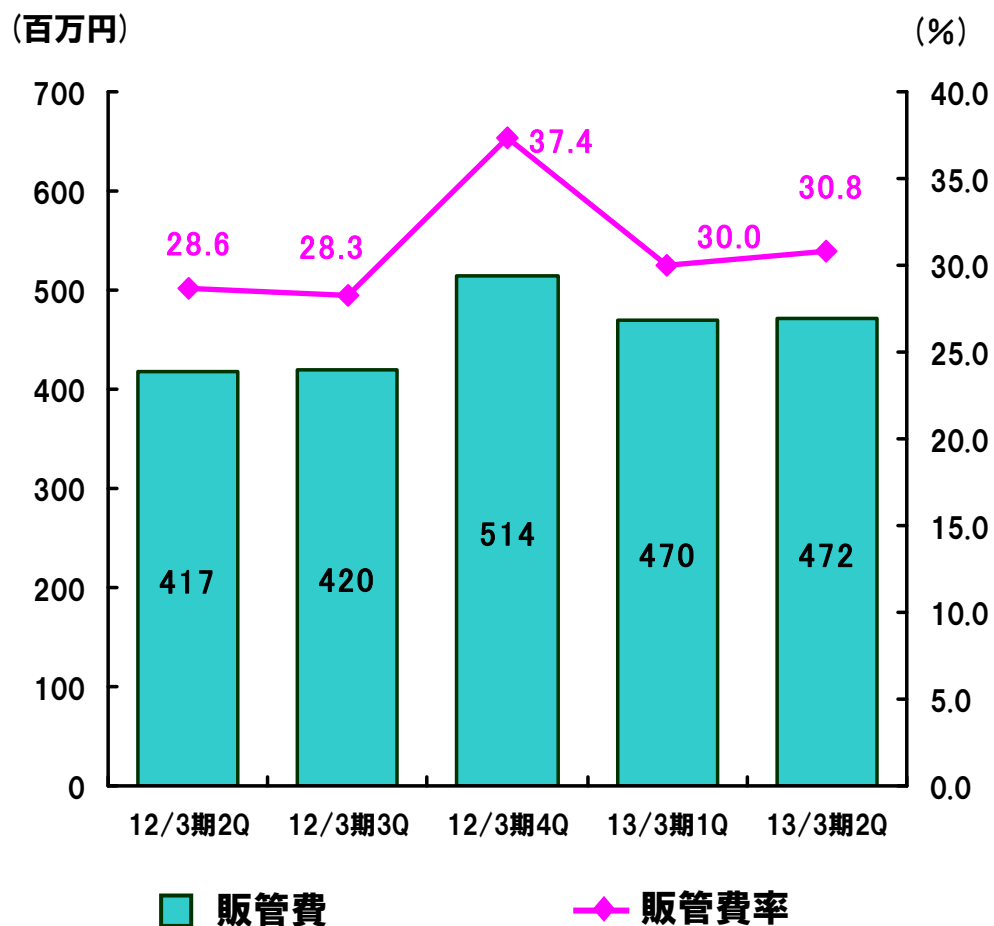
売上総利益と売上総利益率の推移



- 当2Qの売上総利益は前年同期比0.3%減少の716百万円
- 震災による在庫減をカバーするため大幅増産を行った前年同期に比べ生産量は1割程度の減少となったこと等から、売上総利益率は2.5ポイント低下し46.7%
- 13/3期3Q及び4Qは平均で45.5%の売上総利益率を見込む

（四半期ベース資料） 販管費の推移

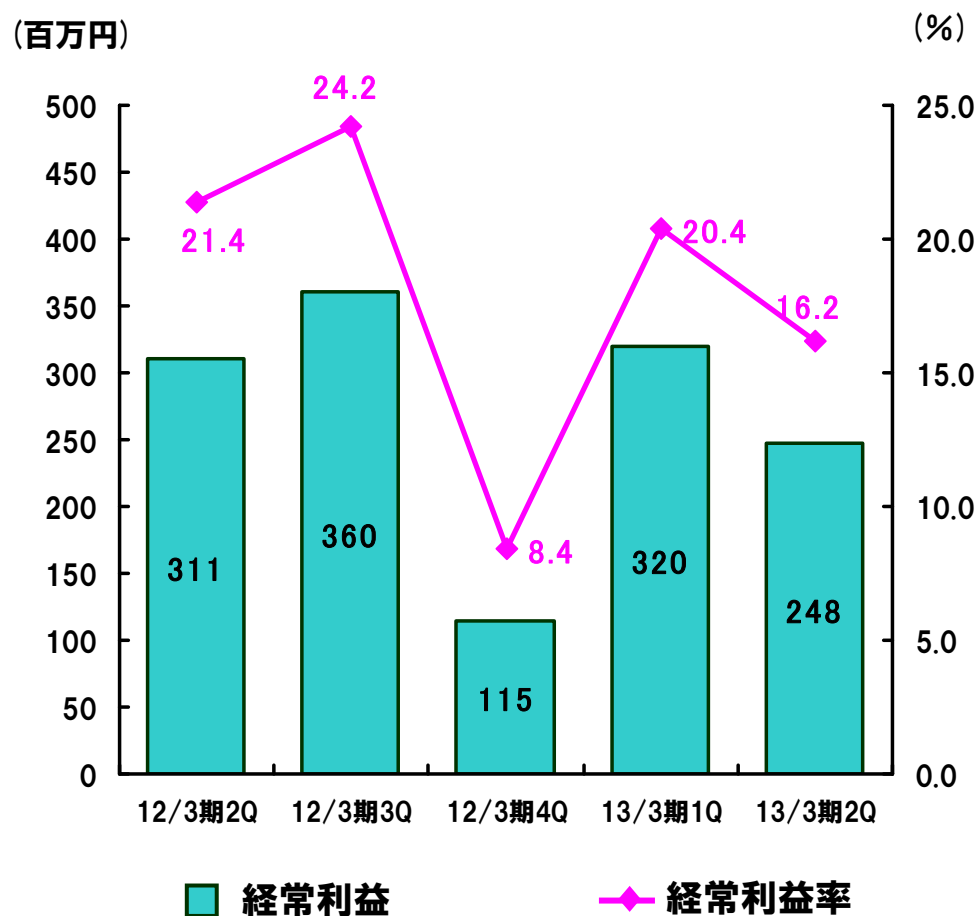
販管費と販管費率の推移



- 当2Qの販管費は、連結子会社（日進エンジニアリング）の増加や営業人員増等により人件費が増加したこと等から、前年同期比13.0%増の472百万円
- 販管費率は2.2ポイント上昇し30.8%
- 12/3期4Qは震災後の社員の努力に報いるため、賞与引当金の積み増しを実施したこと等から、販管費及び販管費率がともに上昇

（四半期ベース資料） 経常利益の推移

経常利益と経常利益率の推移



- 当2Qの経常利益は前年同期比20.4%減の248百万円
- 売上高経常利益率は同5.2ポイント低下し16.2% (売上総利益率が2.5ポイント低下、販管費比率は2.2ポイント上昇)
- 営業外収支は、子会社連結化による家賃収入の減少及び仙台倉庫 (第三者に賃貸中) 減価償却費の営業外費用への計上により60.3%の減少
- 12/3期4Qは売上高の減少に加えて、震災後の社員の努力に報いるため、賞与引当金の積み増しを実施したこと等から経常利益が減少



3. 2013年3月期の業績見通し



業績予想見通し

2013年3月期の業績予想

(百万円)

	2012/3 実績	2013/3 予想	前期比	コメント
売上高	5,781	6,190	+7.1%	販売強化により増収見込む
営業利益	962	1,020	+5.9%	増益見込むが利益率はほぼ横ばい
経常利益	1,032	1,050	+1.7%	営業外収益（雑収入）が減少
当期純利益	535	600	+12.1%	子会社税負担の減少見込む
設備投資	1,051	1,560	+48.4%	機械設備増強、子会社工場新設
減価償却費	471	675	+43.3%	設備投資増により増加
EPS	343.68円	191.94円※	+11.7%	
1株当たり 配当金	70円	39円※	+10.0%	配当性向20%を目標とする

※2012年10月1日を効力発生日として1株を2株への株式分割を実施、分割後の値を掲載

2Q時点における進捗状況について

2Q実績は順調だが、通期予想は据え置き

(百万円)

	当2Q 実績	当下期 予想	通期 予想	当2Q 進捗率
売上高	3,102 (+6.4%)	3,088 (+7.7%)	6,190 (+7.1%)	50.1%
営業利益	550 (+3.5%)	470 (+9.0%)	1,020 (+5.9%)	53.9%
経常利益	568 (+2.3%)	482 (+1.3%)	1,050 (+1.7%)	54.1%
当期純利益	331 (+4.3%)	269 (+23.4%)	600 (+12.1%)	55.2%

- 売上高は通期予想に対して50.1%の進捗率となり、ほぼ計画どおり
- 各利益は53.9%～55.2%の進捗率と順調に推移
- 欧州・中国等海外経済の減速に加え、日中関係の悪化等から市場環境は厳しさを増しており、通期見通しは据え置きとした

※()内は前年同期比増減率

2013年3月期の重点戦略

1. 小径エンドミルの販売拡大

(国内) 精密微細加工ユーザーの新規発掘と育成
部品加工ユーザーへの更なるアプローチ
(海外) 各国・各地域にマッチした対応の実践

2. 新製品開発のスピードアップ

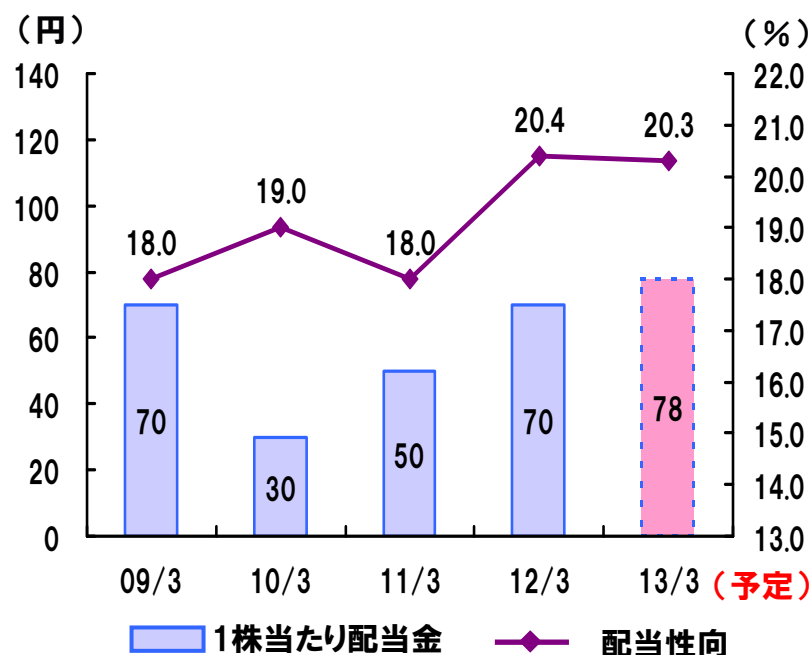
脆性材、高硬度材等多様な被削材への対応
新規市場に向けた工具開発

3. NSグループ全体での経営資源の有効活用

グループ全体での最適な生産体制の構築
(生産性向上、内製化によるコスト削減)

株主還元について(増配と株式分割)

① 配当の推移



業績に応じた利益還元
(配当性向20%を目標)

- 2012年3月期は業績上方修正により期初計画 36円 → 70円に変更
- 2013年3月期は8円増配の78円を予定(分割後で1株当り39円)

② 株式分割を実施

- 9月30日を基準日として、10月1日に1株 → 2株の株式分割を実施
- 従来からの経営課題であった「流動性」の改善を図り、投資家の利便性向上へ



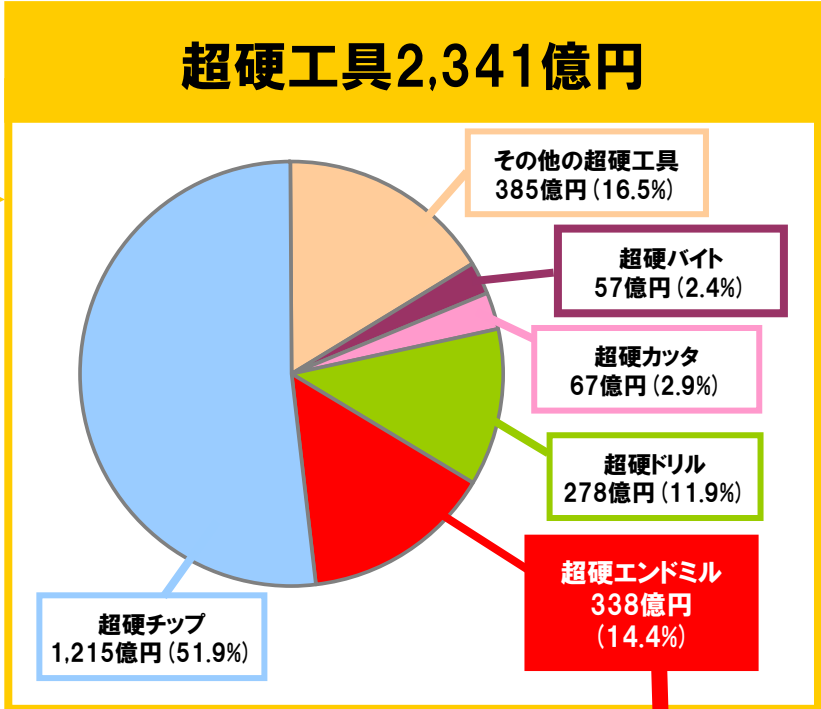
4. 業界動向と事業戦略



業界動向

機械工具生産金額 (2011年) 総額 4,113 億円	
超硬工具	2,341億円 (56.9%)
C(W)BN工具	221億円 (5.4%)
ダイヤモンド工具	695億円 (16.9%)
特殊鋼切削工具	854億円 (20.8%)

出所: 経済産業省「機械統計」

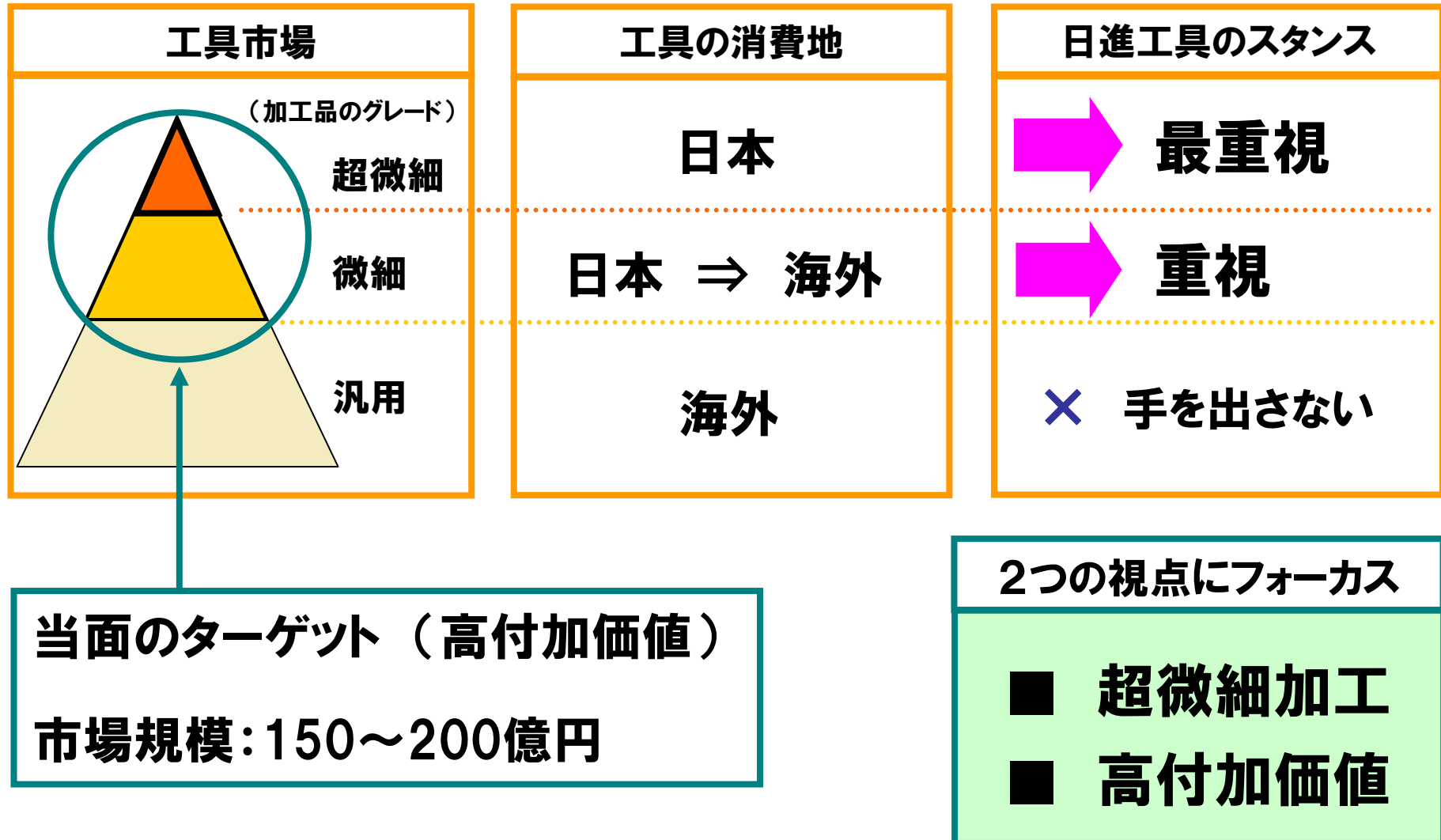


当社は、超硬小径エンドミルの圧倒的No.1企業を目指す

小径市場は
約150億円

出所: 当社推計

工具市場の動きと当社のスタンス



『Made in Japan』を標榜

◇ 国内生産にこだわる

先端技術の必要な製品は国内から出て行かない

国内拠点こそ研究開発向上のカギ

超硬小径エンドミルの製造は、労働集約型ではなく設備集約型（ハードとソフト）

◇ 国内のシェアアップ ⇒ 海外売上高の拡大

国内での評価が上がれば、海外での注目度も上がる

工作機械メーカーとの協調、展示会への積極的な出展

『Made in Japan』こそ最強の戦略

3つの経営戦略

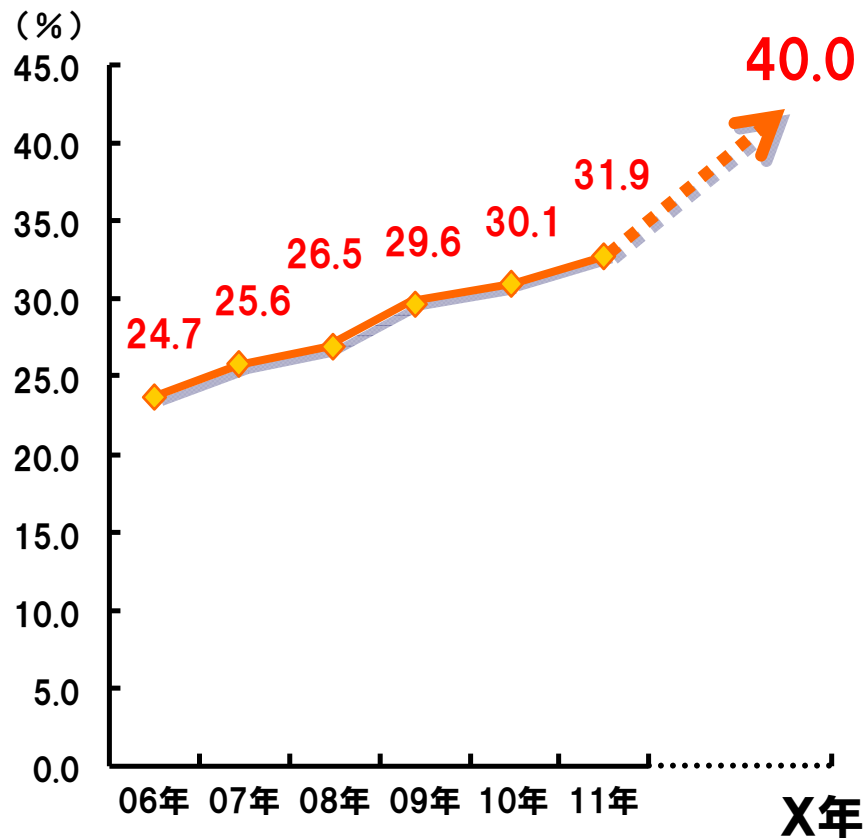
<p>① 国内戦略</p>	<p>日本が主体の超精密・微細加工分野で オンリーワン企業へ</p> <p>➡ シェアを現状の31.9%→将来的に40%へ</p>
<p>② 海外戦略</p>	<p>海外でも「指名される工具」へ</p> <p>➡ 売上高比率を現状の19.2%→将来的に30%へ 工作機械メーカー・現地代理店との関係強化</p>
<p>③ 製品戦略</p>	<p>高精度技術力の推進による 事業フィールドの拡大</p> <p>➡ 新素材工具の研究・多角化</p>

① 国内戦略

日本が主体の超精密・微細加工分野でオンリーワン企業へ

超硬小径エンドミルの当社シェア
将来的には現状の31.9%→40%へ

シェアアップの背景
3つの要因

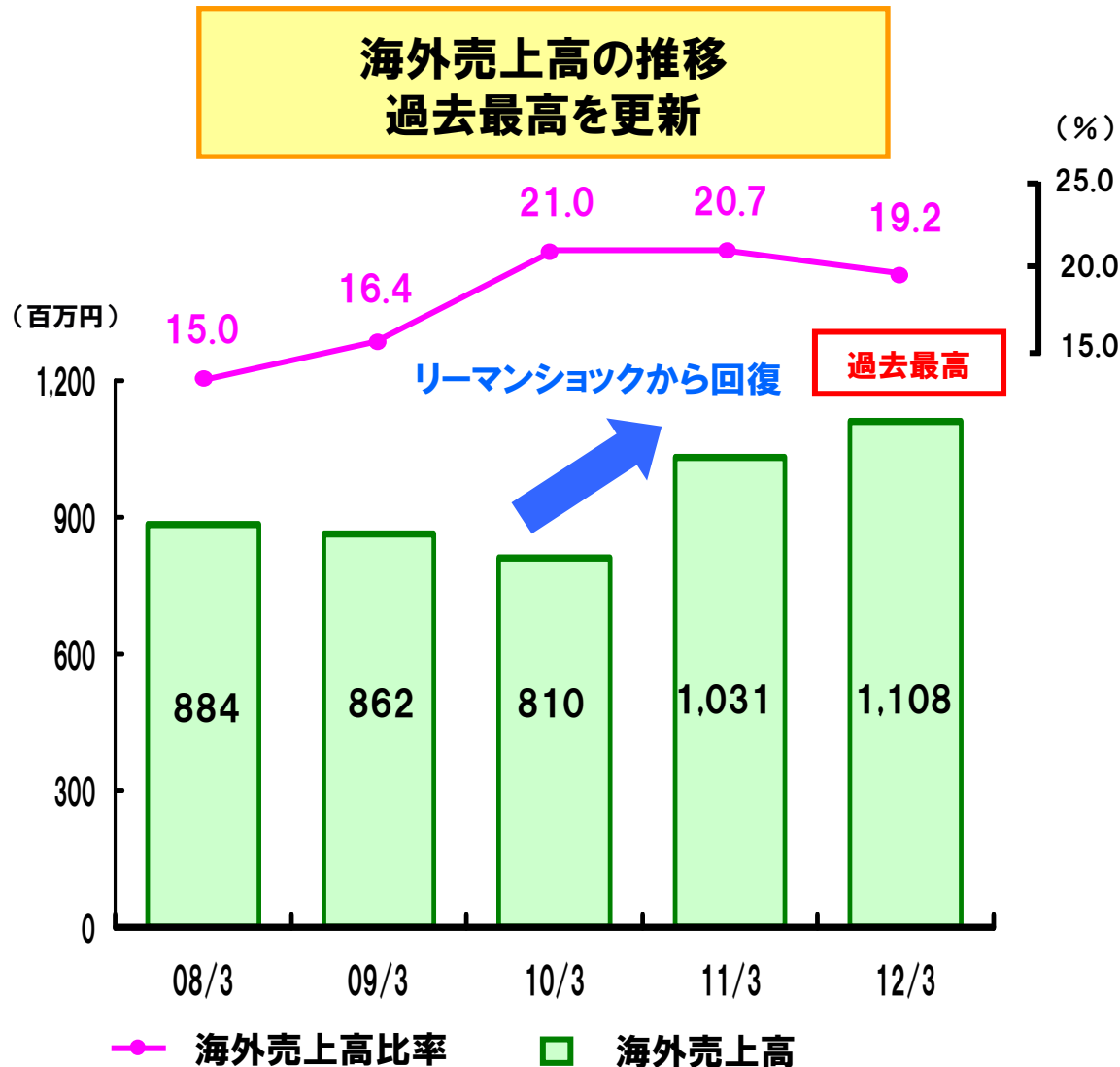


(出所)当社推計

- ① 顧客からの相対的評価上昇
- ② 高精度、安定供給による信頼度向上
- ③ 選択と集中の成果

② 海外戦略

海外でも「指名される工具」へ

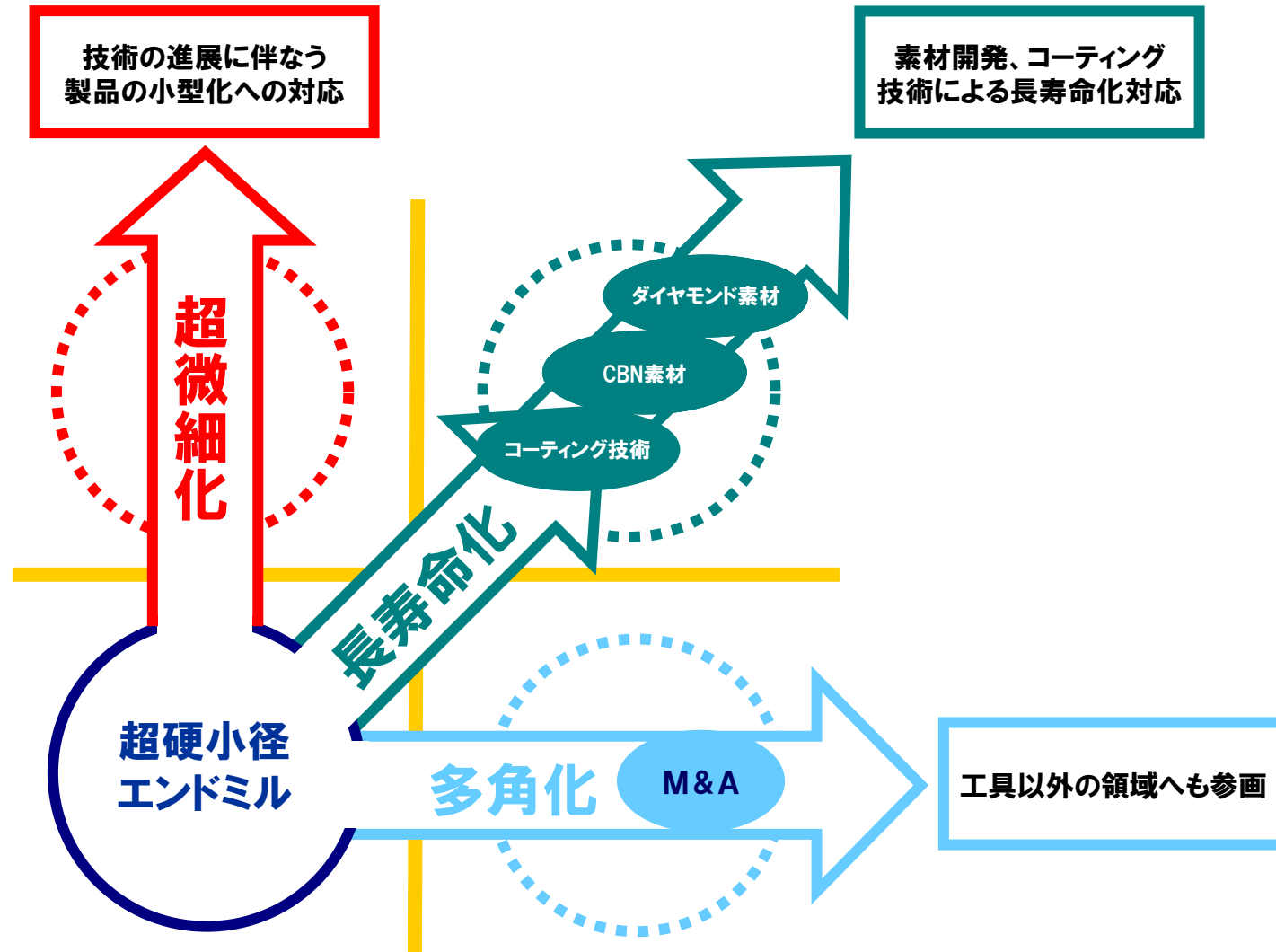


海外戦略

- 将来的には売上高比率を現状の19.2%→30%へ
- 工作機械メーカーとの協調によるセールス
- 国際展示会への積極的な出展で当社製品をアピール
- 国別代理店政策を強化

③ 製品戦略

高精度技術力の推進による事業フィールドの拡大





5. 最後に、マーケットの皆様へ



IR宣言

2012年3月8日発表

IR宣言を公表し、パブリック企業として皆様への説明責任を果たしてまいります。

日進工具株式会社 IR宣言

日進工具株式会社は、ここにIR宣言をいたします。

- IR活動を経営の最重要項目のひとつとして位置づけます。
- ジャスダック上場のパブリック企業として説明責任を果たし、常に明瞭な企業メッセージを発信いたします。
- 企業認知度の向上を目指すとともに、事業環境や業績の好不調にかかわらず、一貫して前向きなIR活動を行います。
- 個人投資家、機関投資家、また国内、海外を問わず、すべての市場関係者に対して公平かつタイムリーなディスクロージャーを行います。
- 市場並びに株主・投資家の皆様とのゆるぎない信頼の構築に努めます。

2013年3月期のIR活動目標

日進工具株式会社 IR活動目標（2013年3月期）

1. 企業の認知度向上に努め、事業内容の理解促進に注力いたします。
 - ◆ 個人投資家向け説明会を年3回開催いたします。
 - ◆ アナリスト・機関投資家向け決算説明会を本決算・第2四半期決算の年2回開催いたします。
 - ◆ 個人投資家向け説明会、アナリスト・機関投資家向け決算説明会で使用したIR資料や質疑応答の内容については、可能な限りウェブサイトに掲載して広く公開いたします。
2. 企業理念並びに経営戦略を、情熱を持ってお伝えいたします。
 - ◆ 個人投資家向け説明会、アナリスト・機関投資家向け決算説明会については、すべて代表取締役社長の後藤勇が直接説明し、すべての質問に回答いたします。
 - ◆ アナリスト・機関投資家との個別取材については、すべての取材依頼に対応いたします。
なお、取材の際は代表取締役社長の後藤勇またはIR担当役員の田島寛のいずれかが必ず対応いたします。
 - ◆ 日進工具の企業価値や事業戦略を理解していただけるよう、明快なIRツールの提供を目指し、説明会で使用するIR資料並びにウェブサイトの改善に取り組みます。
3. 中長期のステークホルダーを増やし、株主満足度向上に邁進いたします。
 - ◆ 株主・投資家の皆様の声を経営にダイレクトにフィードバックし、企業価値の向上に努めます。
 - ◆ 電話やメールでのお問い合わせについては、原則としてすべてに対応いたします。
なお、多く寄せられる質問につきましては、ウェブサイトのFAQコンテンツに掲載し、広く公開いたします。
 - ◆ より多くの株主の皆様にお越しいただけるよう、株主総会を土曜日に開催いたします。
なお、株主総会では原則として すべての質問に回答いたします。
 - ◆ 株主の皆様は、配当性向に配慮しつつ業績に応じた適切な利益還元を実施いたします。

IR活動の実践状況について

(2012年10月現在)

◇ IR体制

■ トップ直轄の体制

■ 社長(後藤勇) — 執行役員(田島寛) — IR担当(今関弘毅)

◇ 主要IR活動

■ IR宣言の実施並びに2013年3月期のIR活動目標の対外的公表
(2012年3月8日発表)

■ 個人投資家向け説明会(開催回数3回/参加人数390名)

■ アナリスト・機関投資家向け説明会(開催回数2回/参加人数80名:概算)

■ アナリスト・機関投資家向け個別取材(件数17件)

■ 決算説明資料の充実とレベルアップ

■ ホームページのリニューアル(2012年9月実施)

■ 株主総会の初の土曜日開催(2012年6月23日)

一層開かれた株主総会を目指して

第51期(2012年3月期)の株主総会の概要

開催日時	2012年6月23日(土) 11:00~12:00
会場	大森東急イン 5階 フォレストルーム (JR大森駅直結)
御土産	・JCBギフトカード1,000円 ・海苔・海苔煎餅セット

株主総会の状況

1. 集中日を避けるとともに、初の土曜日開催といたしました(今年の3月決算の土日開催は2,509社中47社のみ)
2. 来場株主数は前年の倍近い49名となりました
3. 個人株主様のご来場が増加しました一方、お取引先等の株主様は減少しました
4. 7名の株主様より10問のご質問を頂戴いたしました(去年の倍)

第52期(2013年3月期)の株主総会も株主満足度の一層の向上を目指します

IRサイトをリニューアルいたしました



メニュー表示

「トップメッセージ」、「よくあるご質問」、「IRお問い合わせ先」
⇒メニュー名クリックで各ページに移動します

それ以外はメニューにカーソルを合わせると各メニューの
詳細ページ項目が表示されます
(項目クリックで該当ページに移動できます)

投資家の皆様へ

投資家の皆様に特にご覧頂きたいページをピックアップしています

IRニュース

適時開示情報や説明会のお知らせ、レポート更新など最新の
IR情報を掲載しています

「IRニュース一覧へ」をクリックすると、表示されていない過去の
IRニュースをご覧いただけます

メニュー項目

ワンクリックで各メニューの詳細ページに移動できます

URL: <http://www.ns-tool.com/ir/>

IR情報サイトをリニューアルし、株主・投資家の皆様の利便性を大幅にアップしました
当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

<参考資料①> 創業時からの売上高・経常利益推移

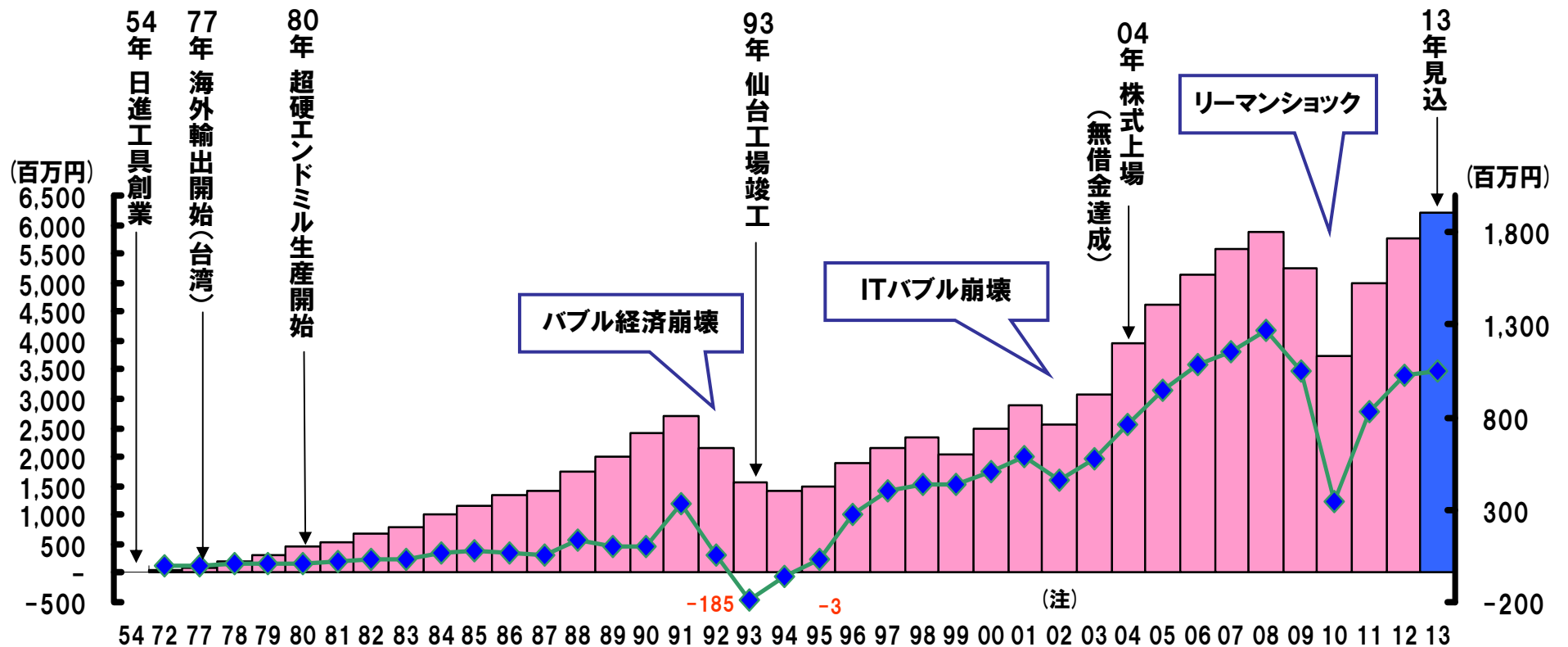
(第1次成長期)

(第2次成長期)

(変革期)

売上高27.1億円、経常利益3.3億円達成

売上高58.9億円、経常利益12.7億円達成



(注) 2002年は7ヶ月決算だが、12ヶ月分に換算

<参考資料②> 過去5年間の業績と主要データの推移

(百万円)

	2008年 3月期	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期
売上高	5,892	5,251	3,857	4,977	5,781
経常利益	1,271	1,052	361	834	1,032
当期純利益	727	598	242	426	535
有利子負債額	0	0	0	0	0
純資産額	5,169	5,649	5,784	6,164	6,678
総資産額	6,409	6,265	6,363	7,143	7,906
自己資本比率	80.7%	90.2%	90.9%	86.3%	84.5%
設備投資額	499	902	386	274	1,051
減価償却費	402	453	491	440	471
1株当たり 配当金	77円	70円	30円	50円	70円
従業員数	206人	205人	205人	206人	232人

お問い合わせ

日進工具株式会社

執行役員管理部長 田島 寛 / IR担当 今関 弘毅

TEL : 03-3763-5672

FAX : 03-3764-8225

E-mail : ir@ns-tool.com

将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。